

令和５年度 阿波市総合教育会議 会議録

(1) 会議 開催日

令和６年１月２４日（水） 阿波市役所 ２階 災害対策本部室
午前１０時００分から午前１１時１５分まで

(2) 出席委員の氏名

市 長	町田 寿人
教 育 長（委員）	高田 稔
委 員	森本 匡史
委 員	細川 敬雄
委 員	森 文彦

(3) 委員を除く、議場に参加した人の氏名

阿波市議会 議長	笠井 一司
阿波市議会副議長	吉田 稔
阿波市議会 文教厚生常任委員会	
委員長	藤本 功男
副市長	安丸 学
副市長	木下 修一
教育部長	森友 邦明
教育部次長	佐藤 正彦
教育部次長	酒巻 達也
学校教育課長	前田 耕志
社会教育課長	板東 毅
学校給食センター所長	井内 徹
教育研究所研究員	鈴田 敦子
企画総務部長	坂東 孝一
企画総務部次長	大倉 洋二
企画総務課課長補佐	石川 学

(4) 傍聴人 0 名

(5) 欠席委員の氏名

教育長職務代理者	重清 由充
委 員	大戸井 美生

大倉次長	皆さんお揃いですので、ただ今から「令和５年度 阿波市総合教育会議」を始めさせていただきます。本日司会進行をさせていただきます企画総務課 大倉と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。 本日の出席者につきましては、別紙２の席次表のとおりでございますので、紹介に代えさせていただきます。なお、重清職務代理、大戸井委員につきましては、欠席のご連絡があったことを申し添えます。
高田教育長	私の方から２人の欠席について、ひと言申し添えさせてください。 大戸井委員さんからは、どうしても日程が調整できずに欠席しますとご連絡をいただいております。大戸井委員さんからは、今日のテーマについての意見をいただいておりますので、後ほど代読させていただきます。重清委員さんは、急遽、体調不良のため欠席の連絡をいただきました。重清委員さんからも教育支援センターを訪問した時の思いや感想等を送っていただいております。後ほど代読させていただきます。 ２人の委員さんからは、急遽参加できなくなったことを深くお詫び申し上げます。以上、お伝えいたします。
大倉次長	それでは初めに、町田市長よりごあいさつを申しあげます。
町田市長	皆さん、おはようございます。「令和５年度 阿波市総合教育会議」の開会にあたりまして、一言ご挨拶させていただきます。 本日は、阿波市議会より、笠井一司議長、吉田副議長、藤本文教厚生常任委員会委員長には、ご臨席をいただきまして誠にありがとうございます。 また、平素、ご参会の教育委員の皆様方には、本市行政の推進、とりわけ、教育行政の推進に、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、誠に感謝しております。 そして、元旦に能登半島地方を震源としたマグニチュード７．６、最大震度７の地震があり、阿波市も出来る限りの支援をしたいということで、支援物資としてトイレの処理セットを１７，８００個、簡易トイレを７０個届けております。人的支援につきましては、昨日出発式を行い、阿波市の職員２名を派遣する予定でしたが、天候により順延となりました。また、保健師の派遣要請も受けております。何カ月続くか分かりませんが、阿波市として精一杯の支援をしていきたいと考えております。そして、亡くなった方には、哀悼の意を捧げるとともに、被災された方は、過酷な状況を強いられていることに対しまして、お見舞い

	を申し上げます。 さて、本市では、「子育てするなら阿波市」をキャッチフレーズにしており、企業や市民を含めて市全体で子どもを支える「阿波っ子条例」を制定しています。そういった中で、精一杯の予算を投入いたしまして、ソフト面、ハード面から教育行政に対しまして、施策を推進しております。 こういった中で、「阿波市総合教育会議」は、市と教育委員の皆様方が、互いの役割や権限を尊重し合いながら、いろんな課題や、将来像に向けたことを話し合う非常に有意義な会であると認識しています。 今日の議題につきましては、「阿波市の不登校対策について」としております。全国調査では、30日以上欠席した不登校の児童生徒数は10年連続での増加となり、過去最多を更新しております。この後、担当の方から阿波市の不登校対策の状況について説明させていただきますので、忌憚のない意見をいただき、より意義のある会議にしたいと思いますので、ぜひ、ご協力の程よろしくをお願いします。 そして、これから阿波市の教育行政がさらに一歩でも二歩でも前に進むようにしていきたいと思っておりますので、今日はどうかよろしくお願い申し上げます。
大倉次長	続きまして、高田教育長よりごあいさつを申し上げます。
高田教育長	一言ごあいさつを申し上げます。 本日は、笠井一司議長様、吉田副議長様、藤本文教厚生常任委員長様のご臨席のもと、阿波市総合教育会議が開催されますことをたいへんうれしく思っています。 最初に、この場をお借りしまして、今年度の教育環境整備の概要についてご報告させていただきます。 学校教育関係では、市場中学校夜間照明及び防球ネット改修整備事業を行いました。また、吉野中学校屋内運動場大規模改修工事と、市場地区のすべての小学校プールの改修工事が今年度末をもって終了する予定でございます。 その他、すべての小学校に電子黒板付プロジェクターを設置することができました。 社会教育関係では、阿波図書館大規模改修工事、市場公民館大規模改修工事も今年度末には完了する予定となっております。 市長さん並びに議会の皆様方には、常に、子どもたちの教育環境整備

	の充実に、ご理解・ご支援をいただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。 さて、本市の教育行政は、市の最上位計画である第2次阿波市総合計画をはじめ、教育大綱や教育振興計画に基づき進められております。 そして、この総合教育会議は、市長と教育委員会が、十分な意思疎通を図り、より一層、民意を反映した教育行政を推進するために行う会議となっております。 先ほどの市長さんの挨拶にもございましたが、「子育てするなら阿波市」「子育て応援のまちづくり」のさらなる実現に向け、これまでの取組への成果や課題に評価を加えながら、今後の教育行政施策を進めてまいりたいと考えています。 本日も、委員の皆さま方からご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。
大倉次長	それでは、議題に入りたいと思います。議事の進行は主催者であります町田市長にお願いしたいと思います。 市長、よろしくお願いいたします。
町田市長	次第に従いまして、議事を進めてまいります。皆さん、ご協力の程よろしくお願いいたします。まず、議題1、「阿波市の不登校対策について」 ・長期欠席、不登校の現状等 ・教育支援センター（阿波っ子スクール）の取組 ・今後の方向性と課題 について、事務局から説明をお願いします。
佐藤次長	それでは、事務局から説明をさせていただきます。
鈴田研究員	①阿波市教育研究所 研究員の鈴田でございます。 ②今回は、不登校の現状と対策、教育支援センターの役割、今後の方向性と課題という4つの柱で、お話しさせていただきます。 ③最初に、「全国の不登校の現状」です。 ④これは平成14年度から、令和4年度までの「全国小・中学校の不登校生徒数の推移」を載せたものです。平成29年度あたりからうなぎ登りに増え続けているのがわかります。 ⑤ここに示しているのは、過去5年間の「全国の不登校児童生徒数」です。令和4年度では、年間30日以上長期欠席者は、全体では299、

	048名で、これは子ども全体の3.2%にあたります。 ⑥このスライドは、「不登校」と回答した児童生徒」の主たる要因を表しています。1位の「無気力・不安」は、全体の51.8%となっており、圧倒的に高い割合となっています。以下、2位「生活リズムの乱れ、遊び・非行」(11.4%)、3位「いじめを除く友人関係をめぐる問題」(9.2%)、4位「親子の関わり方」(7.4%)、5位「学業不振」(4.9%)となっています。しかし、原因は一つだけではなく、さまざまなものが関係していると考えられます。 ⑦このような状態を受けて、令和5年3月に文部科学省から「誰一人取り残されない学びの保障」を社会全体で実現していきたいという目標を掲げた「COCOLOプラン」という不登校対策資料が出されました。 ⑧その中では、このような3つのめざす姿が掲げられています。 ⑨次に徳島県の現状を報告いたします。 ⑩令和4年度「不登校児童生徒の数」は、全体では1,565名で、内訳として、小学校は477名、中学校は1,088名となっており、徳島県でも年々増加しているのがわかります。 ⑪次に「阿波市の現状」です。 ⑫阿波市教育研究所では、毎年、年に2回、教育支援センターに通っている児童生徒も含めた、不登校傾向にある子どもの調査を独自に行っています。本人の特性など、もう少し踏み込んだ実態調査も先生方の協力のもと、行っています。 ⑬これは、昨年度までの阿波市の不登校「過去10年間の移り変わり」を表しています。黄色は、現在の中学3年生、水色は、現在の中学2年生の推移をあらわしています。 ⑭これを出現率で表すと、令和4年度は、小学校では全体の1.1%、中学校では5.0%の子どもが不登校状態にありました。 ⑮このスライドは、今年度1学期に、不登校傾向にある子どもの数を調査したものです。 「昨年度から不登校が継続している者」、「5月末までに10日以上欠席している者」という条件で調べました。数の中には、教育支援センターに通級している子どもも含まれています。「小学校では0.63%」、「中学校では4.7%」の子どもが不登校状態であることがわかりました。小・中学校とも、昨年度の同じ時期より、今年度の方が少し高いことがわかります。 ⑯これは、7月末に行った「個別の実態調査」から、わかったことを簡潔にまとめたものです。
--	---

	中学校では、学年が上がるにつれて、不登校の生徒数が増えているので、より多くの人の目で子どもを見ていくためにも「校内支援体制を、さらに充実させていく」ことが大切になると思います。 2つ目に、「専門家」や「関係機関」と連携できていない児童生徒がまだまだいることがわかりました。専門機関や、関係機関と連携しながら支援することは、子どもたちの抱えている問題に多方面からアプローチでき、不登校の早急な解決につながると思います。 ⑬次に、不登校対策として、「学校」、「阿波市教育研究所」、「阿波市教育支援センター」が取り組んでいることを順に説明いたします。 ⑭まず、学校における取り組みを紹介します。 どの学校でも、担任や学年主任、時には管理職による家庭訪問も行っています。キーパーソン的存在の養護教諭も、保健室で子どもと深く関わっています。別室登校、または別室指導をしている学校もあります。そして、SCやSSWによるカウンセリングは日常的に行っています。 ⑮次に、教育研究所の取り組みです。 先ほどお話ししたように、年2回の不登校状況調査の他に、「対策協議会」を開催しています。1学期の調査もふまえて、毎年8月末か9月はじめに不登校対策協議会を行っています。 ⑯今年度は、令和5年9月4日月曜日に土成中央公民館で行いました。参加者は、教育委員会関係者、子育て支援課家庭児童相談員、育成センター、各学校の先生方、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援学校巡回相談員など、さまざまな立場の方44名にご参加いただき、共通理解を図りながら情報交換したり、今後の課題解決に向けて具体的方策を話し合ったりしました。 ⑰⑱後半は、中学校区ごとに分かれて、参加者が持ち寄った情報をもとに、事例を深く話し合いました。 ⑲3つ目に、今年度発足した「阿波市教育支援センター」について説明いたします。 ⑳本年度より、「適応指導教室 阿波っ子スクール」から、「阿波市教育支援センター」という名称に変更となりました。その背景には、適応指導教室という名称は、「学校に適応できない子どもを、適応できるようにすることだ」と受け取られてしまい、誤解を招きます。昨今言われているように、「不登校は問題行動ではない」「状況によっては学校を休ませる必要がある」ということも考慮した上で、名称を変更することになりました。さらに、今年度から支援員の数も一人増えたことによって、より多くの子どもと関わり、社会的自立に向けてサポートしやすい体制
--	---

	となりました。 当センターでは、「教科学習」や「体験活動」、「相談活動」を中心に、必要な子どもには「訪問指導」もしています。さまざまなことをさせながら、子どもたちが自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立していく力を身につけさせたいと考えています。 そして、「ICTを活用した対面指導」についてですが、「教育支援センターにも通級できない児童・生徒が家庭に引きこもり、社会とのつながりを持ちにくくなっている」ケースもあります。そのような子どもたちとの、つながりを保つための手立てとして、ICTを活用し「誰一人取り残されない学びを保障していこう」と考えて、現在、準備を進めているところです。 ②⑤相談体制についても、相談日や専門機関の先生の数も増え、昨年度よりさらに充実しています。 阿波市内の子どもたちがカウンセリングを受けられる機会は、週3日あります。ここに載せている日は、各校ごとにカウンセリングする日とは別のものです。 場所は、基本、教育支援センターの相談室を使用しますが、変更の希望があれば、別の場所でも受けられます。SSWの阿部先生には、昨年度から引き続き、お世話になっています。 毎週火曜日が担当となっています。最近は相談件数が非常に多いので、決められた時間を延長して関わってくださることも、多々あります。 ②⑥教育支援センターの利用状況です。1月の現時点で、正式に入級届を提出して活動している児童生徒は、中学生16名です。 そのほか、体験期間で利用している生徒も1名います。3年生13名のうち、3分の2以上の生徒は、昨年から引き続き入級している子どもたちです。 ②⑦4月以降、保護者や子どもからの相談・または支援センターへの見学は18件でした。圧倒的に中学3年生が多い状況でした。小学生の相談や見学もありました。3学期になってからは、中学2年生の見学も増えています。また、保護者だけのカウンセリングもありました。見学には至らなくても、学校の先生方からの問い合わせや個人的な相談も数多くありました。教育支援センターでは、学校を通じて、見学を随時受け付けていますが、活動場所等の問題もあり、すぐに入級というかたちはとっていません。学校や保護者、そして本人の状況や願いを十分に伺った後、どの場所が子どもにとってふさわしいのかを一緒に考えていくところからスタートします。まだまだ教育支援センターについての認識が薄
--	--

	いようなので、今後も幅広く活動状況を知らせていきたいと思います。 ㊸教育支援センターと学校との連携については、学期ごとに、在籍校でケースサポート会議をしています。普段は、ストークメールや電話等で、担任や学年主任、生徒指導の先生と密に情報交換をしています。 ㊹今年度の活動を写真を使って紹介します。 ㊺右の写真は農作業をしている様子です。教育支援センターでは、近所の畑を借りて、季節ごとの花や野菜を育てています。植物の成長を見るだけでも、情緒の安定につながるような気がします。左の写真は、小林主任支援員毎月、人生論をテーマとした話をしているところです。シリーズ化しています。 ㊻書道の師範資格をもっている阿部支援員からは、生活に役立つ「実用習字」を教わっています。 ㊼今年、地域の方の声かけで「手打ちうどん体験」をさせていただきました。 ㊽「セラピー乗馬」は、徳島県下でも大変珍しく、貴重な体験となっています。この行事だけは欠かさずに参加している子もいます。 ㊾やり始めた当初、馬にもなかなか触れなかった子が、一人で馬に乗れるまでになりました。子どもたちが楽しみにしている行事の一つです。 ㊿お話を伺った光永さんは、数年前に原因不明の難病に冒され、2年間車椅子または寝たきりの生活を送られた方です。セラピー乗馬で偶然知り合い、お招きして、「生きることとは」について話を伺いました。 ㊽㊿七夕お楽しみ会です。パンケーキも焼きました ㊽㊿今年度10月に行った遠足です。生徒7名、職員3名、計10名で参加し、淡路島のイングラントの丘に行きました。 ㊽㊿ミカン狩りです。阿波っ子スクールの設立当初からお世話になっている土成町在住の楠さんの畑でミカン狩りをさせていただきました。 ㊽㊿10月から鳴門教育大学大学院で臨床心理学を専門に勉強している実習生さんが来てくれています。 ㊽㊿当センターでは、月1回「阿波っ子保護者の交流会」を実施しています。同じような悩みを持つ保護者が、情報交換したり、安心して本音を話したりする場となっています。この会は教育支援センターに通級していない家庭の参加もOKとしています。毎月3～5名の参加者が本音を語り合っています。保護者には心のよりどころとなっているようです。現在、保護者会をしているところは、徳島県下でも珍しいようです。 ㊽㊿教育支援センターの様子を知らせる「阿波っ子だより」です。定期的
--	---

佐藤次長	に発行しています。市内各小中学校に配信しているので、教室に掲示したり、家庭に配布したりしている学校もあるようです。 ④②今後も教育支援センターは、さまざまな活動を通し、子どもたちが精神的な成長を図りながら自立していけるよう、多方面からサポートしていきたいと考えています。 ④③私の方からは、以上の取り組みを踏まえて「今後の方向性と課題」についてお伝えします。 ④④まず1点目です。校内教育支援センターの活用です。別室での支援につきましては、先ほども説明がありましたが、さらに充実し、必要がある学校は、校内教育支援センターへの移行や設置も検討していきます。阿波市内の中学校においても地域のボランティアの方の協力を得ながら、空き教室で指導している学校もあります。国においては、来年度より全国6,000校、徳島県では5校校内教育支援センターの整備を進めていくとのことです。県費の教職員がつくということで、阿波市も応募したところですが、来年度は残念ながら配置されません。引き続き要望してまいります。 課題としましては、人材配置であったり、施設（教室環境）の充実だと思えます。 ④⑤次に2点目、90日以上欠席の児童生徒や関係機関と相談ができていない児童生徒への支援です。阿波市においては、学校や子育て支援課などにおいて、全ての児童・生徒に働きかけを行っていますが、さらに、福祉部局と連携し、要保護児童対策地域協議会等を通じて、子育て支援課、家庭相談員、子供女性相談センター、主任児童委員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との「ケース会議」を実施し、支援の方策を検討し、働きかけを行っていきます。個別の働きかけの必要性があり、要望がある場合には速やかにケース会議を実施して支援策を検討しております。 ④⑥3点目、「チーム学校」による早期の支援です。 不登校になる前に、「チーム学校」による支援を実施するため、小さなSOSに早期に気づくことができるようにする。そのため、タブレット端末の活用等が考えられています。 これについても、文科省の来年度からの事業の1つです。阿波市内の中学校でも昨年度モデル事業として、「心の天気図」として、夕方に今日は「晴れ」、今日は「曇り」、「雨」とその日の気持ちを入力し、学級担任が、児童・生徒が家に帰る前に気づけるようモデル事業の取り組み
------	--

	を行いました。こういったことが、今後進められていくと考えられています。 次に「アセスメントの段階のスクリーニング」を充実させ、予防教育をすすめる。大学等との連携をはかり、スクリーニングシートを活用し、各校で早めに対応していく。このことにつきましては、鳴門教育大学の臨床専攻の小坂教授とも相談したところですが、やはり、予防や早期対応が大切だということです。 この他に、大学との連携につきましては、教育支援センターにも毎年、鳴門教育大学の大学院生の実習を受け入れるなど連携を図っています。今後もさらに連携を深めてまいります。 以上が現状で考えられる方向性と課題です。
町田市長	ただ今、事務局から「阿波市の不登校対策について」資料に基づき説明がありました。この件につきまして、教育委員の皆様にご質問等をいただきたいと思います。
高田教育長	よろしいでしょうか。阿波市の不登校児童・生徒の中で、どの程度教育支援センターを活用しているか、その割合を教えてください。これが1点目です。 もう1点、主に中学生が教育支援センターを活用していると思います。今日も、体験学習について主に説明がありましたが、保護者や子どもさんのニーズの中では、やっぱり学習支援、いわゆる進路に関する学習支援が大きいと思います。そういった学びもしっかりサポートしていただいていることは感謝申し上げます。例えば、昨年、一昨年のここを活用した子どもさんが、こういったところへ、進路、進学したか等を含めて教えていただけたらと思います。
佐藤次長	教育支援センターの活用状況についてですが、全国の統計を調べてみましたら、昨年10月6日に公開された資料では、全国では教育支援センターの活用は8.5%となっています。阿波っ子スクールは、令和5年度では不登校生の27.5%の生徒（中学生）が教育支援センターを活用している状況です。全国と比べると多くの子どもたちが、教育支援センター（阿波っ子スクール）を活用してくれています。 進路についてですが、昨年度は中学3年生の子どもたちが在籍していなかったということで、現在高校2年生のデータになりますが、全員進学しました。半数が全日の高校、半分が定時制、通信制の高校です。最

町田市長	近、通信制もインターネットを利用することで、子どもたちのニーズにあったいろいろな勉強ができます。以上です。 ありがとうございました。ほかに、質問等ございませんか。 ほかに、ないようですので、委員の方にお一人ずつ、ご意見・ご感想をいただきたいと思います。 最初に、森本委員、お願いいたします。
森本委員	教育委員の森本です。 先般、関係各位の皆様の御尽力によりまして、本市の教育支援センターの見学をさせていただきました。学生さん10名弱と指導員の方々が、和気藹々と会話されている姿がとても印象に残りました。何らかの悩みを抱えている学生さんの居場所の一つになっているんだというのが素直な感想でございます。 私が、いつも子を持つ一父親として、常々強く願っているのは、子どもが将来社会的自立できるかということです。「宿題した？」とか「勉強した？」とか「何とかやってみれば？」と子どもに日々口を酸っぱくして言うのも、子どもの未来が豊かになる事を願っての事です。恐らく、他の親御さんも同じだと思います。 将来の社会的自立に向けて、子どもたちが準備をする場所の一つが学校です。ただ、多様化の時代で、かつ何らかの事情により学校に行けなくなった子どもが増加している今、「学校に行くこと」ととらわれることなく、「学びたいと思った時に学べる場所がある。行きたい(行っても良いかな)と思える場所が身近にある。」といったことが本当に大切だと思います。今の教育支援センターはそういうところになっていると感じました。社会との関わりが持てる場所となっていると本当に感じました。また、同じ悩みを持つ保護者同士の交流の場を提供されているのも、本市ならではのかなと、素晴らしい取り組みと思います。 私は介護の現場で働いています。利用者の方々は人生経験豊富な方ばかりです。介護の悩みは多種多様です。ましてや多感な学生さんの悩みはもっと複雑で繊細なものだと思います。そんな学生さん達に日々寄り添い、関わり続けておられるセンターの指導員の方々・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの皆様及び学校関係者の皆様の日々の活動には本当に頭が下がる思いです。 ちなみに、私の長男の友人にも中学生から学校に行けなくなった子ども

	も、高校から学校に行けなくなった子どもが何人かいます。ただ、嬉しいことに、みんな未来高校等を利用し、今春、大学生になります。本人の努力があったのはもちろん、周りの方々のこのようなすばらしいサポートがあったというのも絶対欠かせない要因だと思っております。ある日いきなり、目覚めるというのも若い方々にはあると思っております。 今後も、本市の教育支援センターの取り組みが、継続進化し、どの子どもにも身近に、継続的に学びの場が提供され、子どもたちに豊かな未来が訪れることを切に願っております。
町田市長	ありがとうございました。続いて、細川委員、お願いいたします。
細川委員	教育委員の細川です。よろしくお願いいたします。 全国・徳島県・阿波市の不登校について説明いただきました。阿波市の取組等がよく分かりました。 また、昨年11月の教育支援センターへの訪問では、施設見学や意見交換など貴重な時間をいただきありがとうございました。 他の委員さんと意見が重なる場合もあるとは思いますが、自分なりの意見や感想を述べさせていただきます。 学校に行きたくない、行きたくても行けない。不登校を巡る子どもたちの状況は様々です。一人一人に最適な支援を進めていかなければならないと思います。阿波市でも取り組んでいることですが3点についてお話ししたいと思います。 1 番目は早期発見・早期支援。 不登校になる前に対応する。どの学校でも取り組まれていますが、自己肯定感、自尊感情を高めること。人権意識を高め、仲間づくりを図る。学校の全教職員で児童生徒を見守り、連絡・報告・相談で児童生徒の情報を共有する。保護者との信頼関係を築く。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの利用。学年当初や夏休み明けなど時期に応じた指導。進級時の引き継ぎや小・中間の連携・協力など。 このためには子どもと多くの時間を過ごす教員を増やし、一人一人に目配りできる体制を作るのが一番だと思います。是非、教員の増員や市費での教員の確保をお願いしたいと思います。 2 番目は校内での居場所の拡充。 クラスに入れない児童生徒の学校内での居場所や学習環境を確保することが重要です。以前から保健室登校や別室登校などが行われています。昨年、新聞で、文科省が空き教室を利用して、先ほど説明もありま

	したが、学校内で不登校児童生徒をサポートする「校内教育支援センターの拡充を」という記事を見ました。人材確保の問題等があるようですが、児童生徒に合ったペースで生活や学習ができるよう支援してほしいと思います。 3番目が関係機関との連携です。 22年度の問題行動調査では「不登校児童生徒の38.2%は学校内外で専門家からの相談や支援を受けていない」という現状があります。 阿波市では市の子育て支援課を中心として、主任児童委員、家庭相談員、児童相談所、スクールカウンセラー等で「ケース会議」を行っています。支援の方法等を検討し、働きかけを行ってくれているのは、私も学校現場にいたのですが、たいへんありがたいことでした。教員が訪問しても会えないところでも、支援員さんや他の人が行けるということで、子どもの顔を見ることができたケースもありました。ぜひ、今後とも続けてほしいと思っています。 11月の教育支援センターの見学では、活動する部屋、相談室などの施設、掲示物や生徒さんの作品などの環境面、1年間の行事、地域の方との交流、相談や研修会などについて説明いただき、支援センターの様子がよく分かりました。 今年から支援者が1名増員されたことであるとか、ICTを利用して新しいことに取り組んでいることもよく分かりました。 十数名の生徒さんが利用していて、学校へ通学する生徒さんもできたことを知って、たいへんありがたく思いました。 大切なのは、悩みを抱え込むことのないよう子どもたちを孤立させないことだと思っています。人とつながり、不安を和らげるためには多様な受け皿が必要です。学校と家庭、専門家、公共機関や民間機関などの連携が欠かせないと思います。 今後とも阿波市の子どもたちのため様々な支援をよろしくお願いしたいと思います。以上です。
町田市長	ありがとうございました。続いて、森委員、お願いいたします。
森委員	失礼いたします。教育委員としての経験が非常に少ないので、3年前まで現場でいたということがありまして、それらの経験と阿波市教育支援センターを見学させていただいたことから、感想等をお話しさせていただきたいと思います。 私自身も、不登校傾向のある子どもを担当もしてきました。私自身が、

	家庭訪問をして、迎えに行ったりしたこともありますし、先ほど「チーム学校」とお話がありましたが、ほかの先生方の協力を得て、代わりに迎えに行っていたき、子どもたちが学校に来られるようにということを心掛けてきました。 管理職として勤めた頃には、先ほどのグラフにもあったとおり不登校児童の子どもたちは、どんどん増加してきたと感じています。個別に保健室で対応していても、1人だけではありません。保健室には、体調が悪くなった子ども、友達関係で悩みを聞いてもらいたい子どもたちもいたと思います。そんな子どもたちに、学校内での居場所ということで「校内支援センター」ができています。そう思うのですが、そういうようなものを、例えば使っていない会議室を利用して子どもたちの居場所を確保するようにしてきたんですが、学校に来ている以上、子どもたちをほったらかしにするわけにもいきません。 そういう風に考えていくと、細川委員さんのお話にありましたが、どうしても人が必要になってくると思います。実際、必要でした。それぞれの子どもには、それぞれの課題があり対応が異なります。また、「その子どもはこの先生だったらうまく関係が築ける」ということもありますので、できるだけ人的環境を整えていただく必要があります。学校訪問をしながら見せていただくと、その点では、阿波市は非常に以前より充実した配置ができてきているのではないかなと感じました。実際、私が勤めていた時も学力向上推進支援員をはじめ、市の方でいろんな人材を配置していただいて、そのおかげで、先生がこういう不登校傾向、そのまま放っておくと不登校になってしまうかもしれない子どもに対応することができていたと思います。こういうことを現在も続けていくてくださることを、非常にありがたいなと思っております。 阿波市教育支援センターを見せていただいた時も、非常に充実した環境の中で子どもたちが本当に楽しそうに活動できていたのが、よかったなあと感じております。 また、カウンセラーの先生方が以前より多くいるということで、子どもたちが相談しやすい体制が整っているのかなと思いました。そして、事務局の方からお話もありましたが、阿波市の福祉部局との連携、要保護児童対策地域協議会を通じて子育て支援課、家庭相談員、女性こどもセンターなどとの連携は、非常にありがたかったと思っています。学校だけでは、どうしても把握できない情報等を教えていただいたり、学校だけで関わる一方向の関りではなく、行政の方から子どもたちの家庭に支援をしていただけていたのが、この対策には非常に良かったので
--	---

	はないかと考えています。不登校傾向の子どもたちは増えているのですが、阿波市は非常に上手に対応してくれているのではないかなと感じています。子育て支援課では、小さい頃から家庭と関わってくださっているし、それを学校教育現場に情報として教えていただけている、このような体制を今後も続けてくれたら、救われる子どもたちは非常に多いのではないかと思います。 財政面、非常に厳しくなっていくと思いますが、ぜひとも学校現場、そして、こういう子どもたちを支援する体制をこのまま続けていただけたらと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。
町田市長	ありがとうございました。 なお、本日欠席しております大戸井委員さんには、事前に説明しているということで、ご意見をいただいております。佐藤次長、よろしくお願いします。
佐藤次長	先日、重清委員さんよりもご意見を預かっていますので、重なっている部分は割愛して、代読したいと思います。 まず、重清教育委員さんからです。 阿波市の不登校対策について。 事前に、阿波市の不登校対策についてお話をいただいたことと、昨年11月初めに教育支援センターを訪問し、生徒さんの様子を見学させていただき、ご説明いただいた時の感想を申し上げたいと思います。 阿波市の阿波っ子スクールは、県で6番目、平成19年に設置され、17年目を迎えようとしております。令和3年までに13施設、設置されています。それぞれの施設が試行錯誤を繰り返しながら、不登校児童生徒の学校復帰や社会的自立のために関わってこられました。近年、児童生徒数の減少は著しいですが、それにも関わらず不登校児童生徒数は、年々増加しています。 昨年11月、阿波っ子スクールに午後から訪問させていただいたのですが、生徒4名、現役の教員で大学院生の方2名、スクールカウンセラー1名がリラックスした雰囲気ゲームをされていました。とても和やかな様子で、その後、2階の体育館でスポーツをしていました。 阿波っ子スクールは、昼から子どもたちがゆっくり過ごせる環境が整っています。本を読みたい時には土成図書館があり、体育館でバスケットボール、卓球、キャッチボール、ダンスなど雨の日でも体を動かせます。 私たちが見学した穏やかな場面は、ほんの一部であり、一人一人子

	どもの育った環境、背景が違いうように、不登校になる理由も違います。 不登校児童生徒は、不登校になってしまった時には、心がかなり疲弊してしまっていて、「私なんか生きていても」と訴える子どもも少なくないそうで、命に関わる「心のケア」が第一前提であることを把握した上で、不登校について考えていくことが重要だと思います。 阿波っ子スクールに伺い、お話をお聞きするまでは、学習が遅れないように少しでも学ぶ場でしっかり指導してくれればと安易に考えていましたが、毎日来れる子もいれば、来ることができても、数分から数時間しかいられない子、学校に行ったり、阿波っ子スクールに来たりしている子、1ヶ月に1回しか来られなかった子にもしっかり声かけをし、週に1回～2回来られるようになった子など様々です。 こうした子どもたちに阿波っ子スクールでは、1日の中で自分がどのような生活をし、何を考え、どのように行動したのかを客観的、継続的に記録し、自分の成長を実感できるように生活記録シートを作成しています。体調とか、気持ち、今日の感想など自立に向けて自分の日々の生活を振り返ることが大切だからです。 また、学校との連携や子どもの困り感を共有し、環境を整えるという意味で、生徒にとって魅力ある学校の行事、活動があれば行きたいと思うもので、それぞれの学習や活動の魅力を生徒に伝え、参加するかしないかは本人に選択させるという試みをされたこともあり、それが全ての子どもに正解かという、良かった子もいれば、負担に感じる子もいて、一人一人の状況を見据え、デリケートな対応が必要だったようです。 子どもの気持ち、顔色をしっかり見ながら、いかに嫌にならず教育支援センター・阿波っ子スクールに通えるか、この場に来るのがイヤになるのではいけないので、1つでも2つでも出来て良かった、先生に話を聞いてもらえて良かったという充実感を持ってもらえるように職員3人の情報交換は密にとられているとのことでした。 自分の話を聞いてくれる場所、自分の居場所があることがすごく大事で、生徒たちが安心して心をひらいて話ができるように3人の先生方があたたかく親身に寄り添っておられます。 また、月1回のペースで保護者会を行い、日頃の子育てに関する悩みや不安を保護者同士で語り合ったり、指導員や専門家からアドバイスを受けたり、不登校の子どもたちにとって最良の対応を話し合っています。 不登校の保護者の方の「しんどさ」をしっかり聞かせていただきそれに対して声かけをし、家での子どもの様子を聞いたり、子どもたちの阿
--	---

	波っ子スクールでの様子を伝えたりしておられます。 ある月の保護者会で、以前阿波っ子スクールに通われていた、現在高校生、社会人の先輩の保護者の方から経験したお話を聞いて、今、通われている保護者の方が勇気づけられていたということがあり、本当によかったようです。 この保護者会を開くことによって、不登校の子どもへの対応が変わり、保護者が変わることで、生徒の心の変化や安定が見られるようになり、保護者の方の思いも詳しく聞けて、先生方も理解を深めることができたとのことで、阿波っ子スクールに通っていない方でも、誰もが相談しやすい場でありたいと先生方は考えておられます。 そして、地域の方々にも支えられ、交流があり、子どもたちともふれあい、こうしたことが子どもの自立につながっています。 こうした中で、少しずつ学校に戻れそうな子どももいます。そうした時、担任の先生の力は大切です。 教育支援センターからは、定期的に子どもの状況を伝え、学校に出向いて連携タイムをとられています。 不登校問題解決には、長い時間が必要です。阿波っ子スクールに来ている子どもたちは保護者の協力があって通えていて、将来にしっかり夢を持っています。ですが、阿波市の不登校児童生徒の一部でしかありません。なかなか家庭の都合で通うことのできない子、いろいろな事情で通えない子がいます。ICTが進む中、今後家に引きこもっていて、なかなか通うことができない子どもたちにもタブレットを通して少しでも周囲の人とのつながりのきっかけになればと思います。 阿波っ子スクールに伺い、先生方が一人一人の子どもに対し、いかに真剣に向きあっておられるか、また、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、大学院生のサポートの心強さを大変感じました。そして、この場を卒業しても気軽に立ち寄れるよう声がけし子どもたちの居場所を作ってくれています。 今後、教育支援センターでは、訪問型支援、ICTを活用した支援を進めて下さり、指導員や教育相談時間を増やしてください。こうしたサポート体制がますます充実していくことを期待いたします。 以上が重清教育委員さんからのご意見です。 もう1件、大戸井教育委員さんご意見を代読します。 不登校児童生徒への支援については、何年もの間、専門職や先生方が、
--	--

	それぞれ苦勞をされながら、様々な考え方や支援を行い、試行錯誤もされながら、より良い支援の在り方として現在の姿になっていると思います。 そこで、私自身が支援の在り方を整理する意味で、国からの通知である、文部科学省の基本的な考え方を基に、支援の視点を改めて整理し、そのことをもって、私の発言とさせていただきたいと存じます。 この通知の要点は次の点にあると思われます。それは、1点目、不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。2点目、不登校の時期が休養等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益等が存在することに留意すること。3点目、学校教育の役割は極めて大きく、学校復帰のみを目指すのではなく、学校復帰も含めた社会的自立を目指すこと。4点目、既存の学校教育になじめない児童生徒については、学校としてどのように受け入れていくかを検討し、なじめない要因の解消に努める必要があること。 つまり、単に登校するのではなく、その先の社会的自立を目指したもっと大きな目標になった、ということであろうと思われます。 そのためには、5点目、誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりに取り組む。6点目、児童生徒の学校生活のうち多くの時間を占め、学校における教育活動の中心となる授業を魅力あるものにしていくことが重要とあり、注目すべき点として、ここでもICTの活用は規定されているということが見て取れます。 以上のことを受けて、まとめると、学校という場は、多くの人たちとの関わりの中で様々な体験や経験を通して、実社会に出て役立つ生きる力を養う場であり、様々な制度や公的な支援により質の担保された教育機関であるということ。こうした学校教育を受ける機会、周囲の児童生徒と交流や切磋琢磨する機会を得られないことにより、当該児童生徒が将来にわたって社会的自立を目指す上でリスクが存在することも表現されており、それぞれ事情の異なる個々の児童生徒及び保護者の状況に応じた支援等を行うように努めること、となります。社会的自立を目指す過程で、学校という場が実社会に出る前の経験の場であることが強調されています。 一方、阿波市には、登校が出来ない児童生徒に対し、阿波市教育支援センターが設置されています。それがどういう所かは、ホームページに詳細がありますので割愛させていただきますが、実際に見学をし、説明
--	---

	を受けて感じたことは、まさに、これまで述べてきたことの実践がなされている場である、と確信しているところでございます。「不登校により、学びにアクセスできない子どもたちをゼロにすること」を目指していることをも含む、「実社会に出て役立つ生きる力を養う場」であると表現されている学校と同じ機能が、先生方の努力によりなされているのではないのでしょうか。 最後になりますが、阿波市には、阿波っ子条例がありますが、この条例をもっと広く深く市民に浸透するように周知し、働きかけ、「保護者、学校、地域住民、地域団体、事業者及び市は、共働で子ども・子育て支援に取り組むべきそれぞれの役割を自覚しなくてはならない」という理念を、市民一人一人が実践されることを希望して、私の意見といたします。以上です。
佐藤次長	資料について1点お知らせします。本日お配りのパワーポイントの資料ですが、個人情報の観点から回収させていただきます。会議の後、机上に置いておいてください。必要な資料がある場合は、お知らせいただければ、その部分だけお渡しいたします。
町田市長	ありがとうございました。 最後に、高田教育長、よろしく願いいたします。
高田教育長	私の方からも意見・感想等を述べさせていただけたらと思います。 本市における不登校児童生徒数については、先ほどプレゼンテーションで説明でございましたが、ここ数年、同じような割合で推移しております。全国と比べると多少低い割合となっておりますが、決して減少しておりません。もしかしたら、これから増える傾向もあるかと思っております。本市にとっても大きな教育課題の一つと思っております。 不登校の要因につきましては、様々なことが言われておりますが、学校生活に起因するもの、家庭生活に起因するもの、また、それらのことが複雑に絡み合っているものなど、多種多様でございます。もし、不登校になった理由が、たとえ分かって、それらの要因を取り除くことができて、以前の生活に戻れるとはかぎりません。子どもたちの傷ついた心をケアしながら、子どもたちが少しずつエネルギーを貯めていく様子を見守り、社会的自立ができるよう支援していくことが必要だと思っております。そういった支援を教育支援センターには、していただいていると思っております。

	不登校児童生徒への対応は、以前は、ほとんど教員だけで行っていました。しかし、今では教員のみならず、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子育て関係者、多くの関係者が関わり、それぞれ専門的な立場で支援していただいております。 そういったことから、本市でも、今年度から、教育支援センターに指導員やスクールカウンセラーを増やしたところです。また、健康観察、心の動きをしっかりと見守ることができるようＩＣＴを活用しつつ、ご苦勞をかけておりますが、不登校の子どもたちの訪問支援、家庭の支援をしていただくようお願いしています。このことに関しては、本当に感謝しています。 それと、毎年、不登校対策協議会を開催し、多くの関係者でこの問題に向き合うようにしています。私も９月の対策協議会には毎年出席していますが、今年は、特にたいへん有意義な話し合いができたように思います。それは、今までは不登校の児童・生徒の現状を報告し合う情報連携でしたが、今年は、子どもたちにしっかり寄り添い、関わるために、どういったことを自分たちができるかということ話し合う、行動連携につながる協議ができていたように思っております。 中でも、特に印象に残っておりますのは、最近では学校内で支援する「校内支援センター」「別室指導」。特に中学校ではだいたいの学校はしておりますが、そこで関わっているボランティアの方から、このような話を聞きました。 「私も微力ながら子どもたちに関わらせていただいております。しかし、教員でないので、学習指導も十分できない上、また、不登校の子どもたちにどのように関わるのがよいのか正直不安です。」と話されてきました。 学校には、別室登校で学ぶ子どもたちを特別に指導する教員はいません。空き時間のある教員が交代で指導・支援している状況で、それもないともいえるとは限りません。そのような中で、地域の人たちが子どもたちに寄り添い、関わっていただいていることは本当にありがたいことで感謝しております。さらにより良い支援につなげるには、もっと学校と連携しながら、子どもの発達状況、学びの状況を見ながら、その子どもにあった支援や学習プログラムを検討する必要があると思いました。 でも、その方から、親身になって子どもたちと向き合い、寄り添っていただいている姿勢に大きな刺激を受けました。今後とも、子どもたちの命や学びを保障する教育環境整備に努めていきたいと考えています。 それと、プレゼンでもありましたが、予防という視点も大切にしてい
--	--

町田市長	きたいと思っています。そこで、学校で大切にしてほしいこととして、ある民間の教育支援センターの所長さんの話をお伝えしたいと思います。 その先生がこんなことをお話ししていました。「先生方は、子どもたちに、がんばれ、がんばれってよく言うが、不登校の子どもたちは学校に行けなくなるギリギリまで、必死でがんばっていますよ。その思いを理解してほしい。それと、不登校の子どもを変えようという周りの先生方は支援していますが、本当に変わらなければならないのは不登校の子どもではないですよ。受け入れる集団や、周りの大人である場合もありますよ。」と話されていました。 自分の大切さや他の人の大切さを認め合う「人権教育」や、「仲間づくり」を基盤とした学級経営の大切さを伝えているものと捉えています。 今後とも、子どもに向き合い、寄り添い、関わるという教育の原点を大切にするとともに、真に必要な子どもたちの支援ができるよう教育環境整備に努めていきたいと思っております。今後とも、ご指導・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。以上でございます。 ありがとうございました。 それでは、議題1のまとめとして発言させていただきます。 先ほど、事務局から説明がありましたように、本年度から、家庭への訪問型支援やICTを活用した支援に新しく取り組んでおります。また、より一層、児童・生徒に寄り添い関われるよう指導員を1名増加するとともに、スクールカウンセラーも増員し、教育相談をできる時間数も増やしております。 今後もより効果的な取組を模索し、教育支援センターの機能強化を図るとともに、一人一人の児童・生徒の状況に応じた多様な学習機会を提供し、主体的に社会的自立に向かうよう学校、家庭、地域、関係機関と連携して組織的に支援してまいります。 今後とも、本日の議題である「不登校対策」はもとより、学力向上の推進、教育環境の充実などの教育振興に、一層、努力してまいりますので、本日ご参加の皆様方には、ご支援・ご協力を引き続きよろしくお願いいたします。以上でございます。 それでは、議題2の「その他」に移りたいと思いますが、何かありましたら、お願いいたします。
------	--

大倉次長	ご意見もないようですので、これで議事を、終了させていただきます。長時間にわたり、委員のみなさまには、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。 それでは、この後の進行は事務局をお願いしたいと思います。 皆様、たいへん、お疲れさまでした。 本日の会議につきましては、阿波市総合教育会議運営要綱第6条に、「会議の終了後、その議事録を作成し、これを公表するものとする。」とされております。 委員のみなさまには議事録ができ次第、ご確認をしていただいたのち、阿波市ホームページへ掲載し、公表する予定としておりますので、よろしく願いいたします。 それでは、これをもちまして、「令和5年度 阿波市総合教育会議」を終了いたします。 ありがとうございました。
------	--